



# 学校だより



3月号

令和6年2月29日  
横浜市立善部小学校  
校長 朝川 健太郎

## 一年間、ご理解とご協力ありがとうございました

校長 朝川 健太郎

如月(きさらぎ)から弥生(やよい)へ。衣を重ね着するほど寒いと言われる2月から草木が生い茂る3月へ。正門前の梅の木や1年生が育てている植木鉢から確実に春の訪れを感じる季節となりました。そして善部小学校では1年間の締めくくりの月となります。6年生71名は3月16日(土)に卒業証書授与式を迎え、善部小学校を巣立っていきます。今年度は4年ぶりに在校生代表として5年生が参加します。6年生の姿をしっかりと目に焼き付け、「これからは自分たちが最高学年として善部小学校を支えていくんだ」という自覚をもってほしいと思います。



さて、2月20日に第4回学校協働運営協議会が開催され、学校評価アンケートや学力・体力調査の結果をもとに1年間の取組について意見交換を行いました。その中で、「高学年になると挨拶が少なくなったり言葉遣いが荒くなったりする」「表現力を身につけるような指導が必要」といったご意見をいただきました。一方、「公園で困っている人を助けて、自宅まで付き添っていた児童がいた」といったうれしい報告もありました。いただいたご意見をもとに、来年度さらにより善部小学校になるよう取り組んでまいります。

今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、教育活動もほぼコロナ前の状態に戻ってきつつあります。活動の制限もなくなり、各学年の宿泊的行事や校外学習も実施されました。また、スマイル班活動も活発に行われ、1年生から6年生までが交流する場面も多く見られました。全校遠足では、6年生が他学年の児童に積極的に声をかける姿からリーダーシップが育っていることを実感しました。

子どもたちにとって学校は、社会性を育む場所です。社会性は人との関わりの中で身につけていきます。コロナによって人との関わりが制限され、授業の中でも対話的な学びができなくなり、話し合うことによって身につく資質・能力の育成が危ぶまれました。他学年との交流もできず、高学年の児童にとって、低学年を思いやる気持ちを身につけることもリーダーとしての自己有用感を実感することもできませんでした。今年度の教育活動を振り返ると、改めて子どもたちは人との関わりの中で大きく成長し、学校は人との関わりの中で育成される資質・能力を意識しながら教育活動を進めていく必要があると強く感じました。教育活動の在り方が大きく変わる中、地域の皆様、保護者の皆様が本校の教育活動にご理解いただいたことに感謝申し上げます。今後も善部小学校の子どもたちのためにご協力をよろしく願いいたします。一年間、本当にありがとうございました。